

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990500050		
法人名	社会福祉法人緑風会		
事業所名	指定認知症対応型共同生活介護事業所 いずみの里		
所在地	栃木県 鹿沼市 泉町2396-3 電話:0289-77-8177		
自己評価作成日	平成23年10月03日	評価結果市町村受理日	平成23年12月26日

※事業所の基本情報は

基本情報	
------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク栃木福祉調査センター		
所在地	栃木県 宇都宮市 大和 2-12-27 小牧ビル3F		
訪問調査日	平成 23年 11月 21日	評価確定(合意)日	平成 23年11月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

鹿沼市の北部地区を中心に、地域密着サービスを始め、4年目に入りました。職員・ご利用者も環境に慣れ、落ち着いた雰囲気の中で安心してゆったりと生活していただけるようになりました。高齢化と共に、身体的な部分での介護量が増えてきましたが、個々が自分らしく生活出来るよう職員一同努めているところです。昨年に引き続き個別ケアを実施し、利用者者と職員が1対1で1日過ごせるよう対応しました。地域とのコミュニケーションに力を入れ、地域の方々に多く参加していただけるよう努めています。立地条件や地域の環境に大変恵まれた所となっており、「住み慣れた地域」での生活をより充実できるようにしていきたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市北部の住宅地の一角に立地し、小規模多機能と併設で開設4年目の事業所です。「地域の中にいずみの里あり」を職員心得に掲げ、地道に地域とのコミュニケーションに力を入れた結果、新たに、泉町老人会(体操教室、敷地内除草作業)、北小学校(体験学習)との交流が実現するなど、徐々に理解の輪が広がっている。併設の小規模と合同で行なっている運営推進会議も活発な意見交換・提案の場としての双方向会議として定着している。100歳を筆頭に開設当初からの利用者が2/3を占め、高齢化(88、3歳)が進んでいるが、個人に合った対応に「より重点的」に取り組んでいる。併せて、月一度の家族との連絡ノートが定着し、お互いの思いや考えが遠慮なく伝えられて良いなど、家族からの感謝の声も聴かれ、共に本人を支えていく関係を築いている。北地区包括支援センターも併設されており、今後地域包括ケアの中心的役割が期待されている事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	気づき、笑顔、地域を含む理念を、職員全員が共有し、出来ているかどうか省みる機会を設け、確かな実践に繋げている。	年初の全体職員会議で理念の実践状況を省みる場を設け、共有と実践を図っている。現場ではリーダーを中心に笑顔をキーワードに取り組み、職員一人ひとりの笑顔が利用者、家族の笑顔へ、さらに職員間の笑顔に繋がりと、明るい雰囲気醸成されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に会費を納めている。地域のお祭りや、学校の運動会、絵手紙展等の地域企画にも参加した。また、小中学校の体験交流をうけいれたり、体操教室を開催し、老人クラブの方々と交流を持った。	「泉町にいずみの里あり」となるよう全職員で取り組んだ結果、近所の北小学校児童の体験交流の受入れ、運動会への参加や泉町の老人会による、事業所内の除草などの実現に繋がった。更に、風流舞踊や地域の皆様・利用者と一緒に進んだ体操教室など地元ボランティアとの新たな交流の輪も広がっている。	全員での取り組み成果が上りつつあります。取り組みが単発に終わることなく、継続して取り組み、「近所の人がいっつもふらっと遊びにこられる場」へと輪が広がるよう工夫されることを期待しています。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	包括センターの協力の下、認知症に関する講座を開催予定。地域に対しては、併設の鹿沼市北包括支援センターが担っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の会議を開催している。利用者代表も参加しており率直な意見を頂いている。会議の内容は、現場に伝えられ、業務に活かしている。	利用者代表、家族代表、市職員、民生委員、法人の役員が出席し、併設施設と合同で定期開催されている。状況報告に対する質疑や出席者それぞれの立場からの意見・提案が出され、双方向の会議となっている。例として感染症対応などの提案を活かしている。	防犯や防災、安全対策などの議題で、地域のお巡りさんや、消防団の団長に出席を要請するなど、人脈の拡大に繋がる取り組みに期待します。併せて、議題に応じて柔軟に出席者を選定し、より専門的な立場からの意見、知識をサービス向上に活かす取り組みにも期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	高齢福祉課の職員も運営推進委員会に参加しており、常に状況報告を行っている。地域包括支援センターとも連絡を密にし、サービス向上に努めている。	市職員は運営推進会議委員として参加して居り、毎回活動状況を報告している。毎月役所へ出向いた際は必ず関係部署へ立ち寄り、情報収集に努めている。併設の地域包括とは日頃より認知症の啓蒙活動など緊密な連携を保っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会を行い、職員全員が理解したうえで、身体拘束のないケアを実践している。	内部研修会を通して、全職員が禁止となる具体的行為の正しい理解を図っている。高齢化に伴い転倒事故なども発生する事があるが、安全を優先し、身体拘束に繋がる事にならないよう、職員配置の見直しや、気づきの徹底を図り、正しいケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同様虐待に関する勉強会を行い、実践している。また、身体の状態等に注意し、発見時は、速やかに報告できるよう対策を講じている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	過去研修に参加している。現在対象となる利用者はいないが、必要となった場合は、関係機関と連絡を取り対応する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	面接時、契約時に担当職員より説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族に対し毎月の生活の様子を連絡ノートを活用し伝えている。また、家族より返事も記入してもらっている。来所時には、必ず会話を持つようにし、電話による連絡や、相談も密に行っている。	利用者の一ヶ月間の生活の様子を連絡ノートに記入し、家族に知らせている。家族からは受診時の結果報告や本人への想いが記入されるようになり、口頭より遠慮なく伝えられて良いなどの評価を得ている。家族の訪問時には必ず担当職員が応対し、意見や要望を聴いている。	職員の異動・退職に対しては、引継ぎ期間を十分に取り、その期間中に説明をしっかりと行なうなど、家族の不安解消の工夫をされることを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員は、意見・提案等がある際は、管理者に伝え、相談できるようになっている。またカンファレンス等行い意見を反映させている。	職員からの意見・提案は、リーダー⇒ケアマネ⇒管理者とルートは明解になっている。他にカンファレンス、リーダー会議、全体職員会議などでも意見を反映出来る仕組みになっている。具体例として、事故再発防止の職員配置などに職員の意見を反映させている。管理者は頻繁に現場に出向き、気軽に声かけなどしながら、実情掌握に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課を実施。職員個々が目標・反省を自己評価し、直属の上司と面接も行っている。 「処遇改善交付金」適用。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内での職員の勉強会を実施。また、法人による研修もある。 法人外での研修にも参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の同業者との情報交換を行っている。 見学の実施や、受入れも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接を行い、本人や、ご家族の意向等確認している。入所後については、随時対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	同上		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申請時に状況等を確認し、受入が難しいケース等については、他事業所への紹介等行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者個々の力と馴染みの分野を見極めつつ、出来る事を行っていただくよう支援している。職員は、感謝の言葉を忘れず、共に支えあう関係を築く努力をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出・外泊や面会は、自由に出来るようにしている。 また、利用者の求めに応じ、面会をお願いしたり、話し合いを持ち、相談等もちかけ、共に本人を支えていけるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの店に買い物に行ったり、長年関わった学校の運動会に参加した。思い出のある観光地に行く機会も設けている。又近所からの面会がある時は、くつろげるよう心掛けている。	家族訪問がやや減って、月1~2度になっている。たまには近所の親戚の人の訪問もあり、職員の仲介で、判別でき、昔話などを楽しんでいる。100歳の利用者がPTA会長として長年関わった小学校から運動会に招待され参加するなど、関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を考慮しながら居場所を作り、歌や、昔話を楽しんだり、家事を行いながら、教えあったり、聞きあって、孤立することなく過ごされている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	申請中の事業所に相談したり、事業所の情報を家族に提供する等している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話、表情、記録等から本人の思い等を読み取り、職員間でも毎日情報交換をし、本人本位の対応を検討している。思いや意向を書き込んだ情報シートも随時書き込み対応に活かしている。	言葉での意思表示が難しくなっている利用者が多い。日々のさりげない会話時の短い単語や、その時々表情・仕草から思いや意向を敏感に読み取り、職員間で毎日情報交換している。また経過記録、情報シートに随時書き込む事で共有し、対応に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しつつ、これまでの暮らしを家族や本人から聞き取り、その内容を職員全員が把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝、個々の1日の様子や気付きを伝え合い対応を検討している。また、カンファレンスを行い個々の対応を検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスにて検討している。更新時や、身体的な状況の変化時において、ご家族や、担当職員・計画担当と相談し介護計画を作成、本人家族の同意を得ている。	高齢化に伴い刻々の変化に目が離せない状態の人もおり、個別のケース記録への克明な記入が重要になっている。毎月末のモニタリングなどに基づきカンファレンスを行い、時には家族も交え、かかりつけ医の意見も参考に、担当職員、ケアマネと課題とケアのあり方を話し合い、計画の見直しを行なっている。状況変化によっては随時の見直しも行い、本人・家族の同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録を作成。対応している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズには応えられるよう努めているが、多機能化までは達していない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	体操教室や絵手紙教室等実施し、地域のボランティアの講師との交流を行っている。作品展を開催し、地域の方にも参加していただき交流が図れるよう工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診等、家族対応にて行っている。家族の都合で職員が代行、送迎対応も可能としている。また、本人の状態や家族の意向にて、協力医等をかかりつけ医に変更する事もある。受診後の結果や様子を家族と共有できるよう努めている。	受診は原則家族対応で行なっている。時にはケアマネが同行し医師より直接話を聞く時もある。診療方針の違いや家族の意向で協力医やかかりつけ医を変更する場合もある。受診結果の報告は都度、または連絡ノートにて詳細に報告を受け、家族と共有出来るよう努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設事業所の看護師により、健康チェックを行っている。常に連絡報告できるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時にサマリー等を活用し、情報提供に努めている。入院中にも様子を見る機会を設け、状況の変化に注意している。退院前には、関係者の話を聞くようにし、復帰に備えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	特養への申請をしていただいているが、終末ケアを希望する家族もいるのが現状。希望を受け入れたいが、ハード面の対応が十分でないため、説明し理解していただいている。出来るだけ長く、ご利用いただけるよう努めている。	高齢化や症状の進行に直面し、終いの棲家としての対応を望む声が増えている。現段階では入浴設備などのハード面で対応が難しい旨を話し、理解を得て、特養への申請をお願いしている。訪問入浴用浴槽の導入なども検討したが、併設と共用のメリットを活かせるリフトの導入を検討(機種選定・見積もり)し、終末ケアの受入れ対応を目指している。	延命処置などを望まない人、医者から余命を宣告され、在宅での生活を推奨された人などの終末期対応について、事業所で出来ること、出来ないことの明文化と話し合いの時系列記録を期待します。更に、リフト導入の実現、職員の看取り対応の知識の習得などの早期実現にも期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員の80%は、救命救急講習を受講済みであり、AEDを設置し急変時に備えている。緊急対応マニュアルも活用している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域への協力を得られるよう、様々な企画を通して、交流の機会を持つようにしている。東日本大震災時には、大事には至らなかったが、民生委員が駆けつけてくれた。ただ日中は、高齢者のみの世帯が多く、協力体制に不安はある。	今震災での被害はなく、建物構造への安心が確認できたが、大半の利用者が無反応であった。近所の民生委員(1人)が駆けつけてくれたが、非番職員の招集に時間を要すること事が判明した。11/17日の夜間想定訓練では限られた人員での避難・誘導の難しさが実感でき、改めて応援を隣近所に求める重要さが解った。近隣の協力者を増やすべく、事業所の建物や敷地を使ったイベントを増やすなど、事業所に親しんでもらうよう努めている。	隣近所への協力要請を粘り強く継続し、近所のキーマンを通じた協力関係の早期構築を期待します。一人でも多く、事業所へ来ていただくため、親しみやすいイベント(体操教室など)の繰り返しの実施とお茶のみ場(サロン)となるよう玄関フロアの工夫などの取り組みにも期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけについては、職員間で確認しながら、一人一人の人格を尊重し、気持ちに配慮しながら行っている。個人情報については、同意を取り、所定の場所に保管している。虐待対応にも含まれるため、会議の場でも注意を促している。	声かけは一人ひとりが最も慣れ親しんだ呼称と、その時々々の状況を判断して利用者の気持ちに配慮しながら行なっている。更に、各人固有の反応の仕方も掌握しており、同じ事を何度も聞かないように職員間で連携して対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、本人の思いや希望を表す機会を多く設け、希望等を受け止め支援するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や、食事時間、食事の場所、静養等、個々のペースや、気持ちに沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族と連携し、馴染みの理美容院を利用したり、衣類、化粧等のお洒落を本人の希望や習慣に合わせて支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	いつもの皮むきや、米とぎ、片付け、味見、お茶入れ等、個々の力に合わせて出来る事を見つけ、参加して頂いている。利用者希望献立や、外注の日も設けている。季節や行事に合ったメニュー作りを心掛けている。	メニュー作成、食材発注、調理を職員が交代で行ない、希望献立にも対応している。皮むき(包丁使用)や下膳など出来ることは手伝っている。職員も一緒に食事し、食が進むよう声かけと若干の介助をしている。各人好みの品が注文出来る、月一度の外注食(寿司、ラーメンなど)は、高齢者とは思えない食欲を見せるなど大変楽しみになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量をチェックし、不足している方には、好みに合わせて補助食等用意している。食事やおやつ以外でも水分を補給していただいている。形態や内容も、個々にあわせ工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状態や力に応じた方法で、朝・昼・夕の口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンに合わせ、トイレ誘導を行っている。身体的に布パンツのみの方は、減ってきているが、紙パンツやパットの使用方法を工夫し、自立排泄できるよう支援している。	開設当初より「おむつ使用ゼロ」を目指して取り組んでいるが、高齢化と共に徐々に難しくなってきた(布パンツのみ2~3人)。個々の排泄パターンにより適時誘導を行なっている。排泄量によりパットの大きさと、紙パンツの組み合わせを工夫するなどして、自立排泄が維持できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況をチェックし、対応している。水分の確保や、ヤクルト、センナ茶等を飲んでいたり、適度な運動を取り入れ、自然な排泄を心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には、入浴日は、個々に決まっているが、個々の気持ちや体調に合わせて臨機応変に入浴できるようになっている。また菖蒲湯等季節感が味わえるよう工夫している。	その時々気分によって左右されるが、最低2~3回/週の入浴は維持できている。着脱が面倒で入浴に拒否反応を示す人が多いが、排泄の後など気分が良い時を見計らったタイミングの良い声かけで応じてくれる。お湯に浸かると長湯になる人が多く、1:1の介助で浴室内での職員との会話を楽しんでいる。100歳の利用者も自力で浴槽の縁を跨いで入浴している。菖蒲湯などの季節のお湯は入浴を一層楽しみにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースや、身体状況に合わせて休息をとっていただいている。昼夜逆転にならないよう注意し、個々のタイミングにあわせ、気持ちよく寝起きできるよう対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師の管理の下、対応している。体調の変化等常に確認し、医療機関と相談する場合もある。職員全員が、個々の薬の内容を理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や力を活かし、家事を行ったり、おやつ作りを行ったり、クラブ活動に参加したり、季節ごとの催しに参加できる機会を作っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	好みや体調に合わせて、戸外へ出かけられるよう努めている。個別ケアとして、温泉に行ったり、外食、ショッピングをする機会も作っている。	高齢化に伴い外出希望が減っている。日頃は体調や天候を見ながら、敷地内での散歩、花壇の花摘み、テラスでのお茶飲みなどへ誘って少しでも外気に触れるよう努めている。個別ケアとして、近場の温泉の日帰り入浴や妹のいる施設への面会など、家族の協力も得ながら支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所金庫にて管理している。必要なときは、出せるようにしている。 3ヶ月毎に、領収書、収支報告書を家族へ渡し報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望にあわせ、対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日次亜塩素酸を使用し、清掃している。換気にも気をつけ、清潔と消臭に努めている。季節の花は絶やさず、装飾等を工夫して、明るく落ち着いた空間作りに努めている。	この時期は次亜塩素酸での清掃と、加湿器を使用して特に感染症と乾燥対策に留意している。共用空間で不快臭など感じられる箇所は全くない。ワンフロアの広いリビングダイニングは季節の花を活けたり、さりげない装飾で色などによる刺激のない様に工夫し、明るく落ち着いた空間作りになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	炬燵のスペースには、自然に利用者が集まりくつろいでいる。読書をしたり、お茶を飲んだり、思い思いに過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具やベット等自由に持ち込んでいただき、使用していただいている。仏壇・テレビ・電気スタンド・加湿器等持参可能である。	各部屋にはトイレ、洗面がついており、ゆったりした広さがある。家具など持ち込み自由で、開設以来暮らしている人が多く、仏壇を持ち込み、毎朝のお焼香が日課の人や、最高齢者の部屋は、独自の書斎兼寝室が出来上がっているなど、各自好みの部屋作りで居心地良く過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置、テーブル・椅子・キッチン等の工夫をしている。		